

令和4年度地域包括支援センター事業中間評価（令和4年11月末時点）

本埜地域包括支援センター

事業ごとの評価と計画	
総合相談支援業務	年々相談件数が増える傾向にあるが、今年度は特に多く、昨年度の同じ時期の統計の倍相当の件数となっており、すでに昨年度の年間の相談件数を大きく超えている。昨年同様介護保険に関する相談が多く全体の56%を占めている。また、高齢者のみの相談ではなく、高齢者の子供や孫に関する相談等、重層的な相談が増えており、他機関と連携するなど包括的継続的な対応を行っている。
権利擁護業務	今年度は新規の高齢者虐待の通報はなく、継続のケースのみの対応となっていたが、高齢者が施設入所となり現在対応しているケースはない。成年後見についての相談は今のところないが、高齢者に関わる介護支援専門員を対象に成年後見についての研修会を5包括と企画し、1月に開催の予定となっている。介護支援専門員に成年後見制度を身近に感じてもらい、相談につながることを目指したい。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	支援の領域において、高齢者が住み慣れた地域での生活を続けられるよう切れ目のない支援を実施するために、地域住民、民生委員、行政、他機関など多岐にわたる関係者と連携している。また、介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメントが行えるための環境整備として、介護支援専門員の後方支援を行っている。
地域ケア会議推進事業	今年度は未開催だが、年度内に2回開催する予定で現在調整中である。BCPの作成を義務付けられていることから、継続して防災について検討していくことと、交通手段についての相談が多いので、生活支援コーディネーターと協働して地域課題について取り組んでいけるように検討していきたい。
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議に出席し、市の事業計画を共有した。また、在宅医療・介護連携の市民講座の運営協力と多職種連携研修会に参加した。
認知症施策推進事業	オレンジカフェについては、おおむね予定通り実施

	<p>できている。今年度から牧の原地区も本埜圏域となったことから1月には牧の原地域交流センターで開催する予定。移動の手段がないため地元での開催の要望もあり、今後できるだけ要望に合わせて企画していく。小学校の認知症サポーター養成講座においても予定通り市と協力し実施することができた。その他認知症推進員としての活動やチームオレンジの取り組みについても目に見える活動をしていけるよう引き続き働きかけていく。</p>
生活支援体制整備事業	<p>高齢者クラブやサークル活動との関わりを持つことはできていたが、地域福祉の要である支部社協との連携が取れていなかった。今後コロナ禍で休止していた支部社協の事業も再開に向けて検討しているため、事業を介して地域に出向く機会を増やし、個別のニーズや資源の把握を行い、これまでSCが発掘してきた人材と新たな人材を必要としている地域の方とをつなげられるように意識して活動していきたい。</p>
令和4年度事業中間評価（総括）	
<p>センターが保健センターから本埜支所内に移転したが、特に大きな支障はなく相談件数も増加している。支所と同一建物内に窓口があることと、市民サービス課との連携が取れていることで、相談者の対応もスムーズに行えていると実感している。事業については、おおむね計画通りに実施できているが、まだ未実施の事業もある。With コロナとはいえ、千葉県で最近では新型コロナウイルスで入院しているのは高齢者のみとされているため、油断することなく、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら予定通り遂行していきたい。</p>	